

看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ アクションプラン 平成27年度

施設名：尾崎病院

ミッション (組織の存在理由)	地域から信頼され選ばれる最高にやさしい病院 を目指す
ビジョン (組織が目指す将来像)	人材確保といきいきと働き続けられる職場環境 を作る

現状分析 (ミッション・ビジョンに対して、WLBの観点から現状を分析)	<ul style="list-style-type: none"> ○「看護ケアに費やす時間を十分にとることができる」29.6%→22.3% 聞き取り調査ができていないため、不足している看護ケアは何と認識しているのか、現状把握と介入まで至っていない。 ○離職率が10%→8.8%に変化。病院見学会を初めて開催、看護師1名の入職に結びついた。 ○平均残業時間減少、昨年比-44%だが、勤務時間外院内研修時間は昨年比 250%であった。委員会や病棟会議が時間外算定可能に変更されたため、増加した。始業前残業については、昨年比-15%となり全体的に減少している。 ○経営組織について、「今の勤務先にできるだけ長く勤めたい」58.4%→40.0%、「目先の利益にとらわれず、長期的視点に立った経営」52.4%→34.2%、「看護職員を大切にできる組織」55.9%→43.5%等7項目中6項目が昨年度よりダウンした。経営状況の説明、理事長の声をメール配信する等実施しているが、不満、不安がある。 ○上司について、65%～77%昨年同様プラス評価になっている。 ○現在の仕事に対する自己評価が低く、特に「自分の描く将来像につながる」46.4%→38.8%、仕事のやりがいがない、今のままでは能力を活かせないと考えている。 ○労働環境について、長期の休暇取得は困難と考えているが、「定時で終わることができる業務」若干増加した。 ○現在の健康状態についての結果は前年度横並びだが疲れ目、頭痛、肩こりが若干減った。 ○制度認知度は前年度に対し84項目中、65項目がプラスになっている。
課題 (ミッション・ビジョンと現状との間にあるギャップ)	<ul style="list-style-type: none"> ○若干増加しているが、人員不足は継続している。また看護ケア時間不足については、業務の見直し、IT化、クラーク活用等施行したが、結果が見えていない。 ○今後の経営計画など策定しているが、浸透していない。正確な情報の発信と周知浸透方法の検討が必要。 ○経営的な不安、仕事に対するやりがい、満足度などそのまま推移すると離職につながる可能性がある。 ○30代後半から50代前半が60%以上を占めており、新卒看護職の採用は少なく、中途採用者の方が多い。人材確保の観点から、中途採用者が働きやすいと感じる職場風土の醸成も必要である。 ○労働環境について、働き続けられる職場環境のためには、多様な勤務形態の検討が必要である。 ○前残業について、各部署バラバラで較差がある。



3年後のゴール	<ul style="list-style-type: none"> ○看護ケア時間の確保を30%→60%にする。 ○残業時間の適正化 看護管理者の時間外削減含む。 ○夜勤出来る人員を確保する。 ○看護職員を大切にできる組織である、44%→60%にする。 ○今の勤務先にできるだけ長く勤めたい、40%→50%以上にする。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

課題解決・ゴール達成に向けた取組計画

スケジュール	課題解決に向けた取組
3年間の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○短時間正社員制度の導入 多様な勤務形態導入による人員確保。 ○業務内容適正化による時間外の適正化。 ○業務内容見直しによる看護ケア時間増。 ○体調管理・健康促進運動の実施 メンタルヘルス体制含む。 ○新たな介護休業支援実施。
1年間の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○WLBの浸透・定期的通知。 ○多様な勤務形態導入検討。 ○看護職と介護職の業務の見直し実施。 ○残業時間調査。 ○健康に対する促進事業検討。
今後4カ月の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○インデックス調査結果のフィードバック（アンケート調査、聞き取り調査と分析）。 ○業務量調査 ○夜勤交代制勤務時間の見直し ○注入ボトル・チューブの洗浄乾燥中央一元化の確立。